

ERAS に準拠した胃・大腸切除術における周術期クリニカルパスの有用性に関する研究

1. 研究の対象

2012 年 4 月から 2018 年 10 月に当院で大腸切除を受けられた方
2015 年 3 月から 2018 年 3 月に当院で胃癌の手術を受けられた方

2. 研究目的・方法

【背景と目的】

当科では大腸切除と幽門側胃切除、胃全摘に対して ERAS に準拠したクリニカルパス (CP) を導入している。いずれも術当日から鎮痛のためにアセトアミノフェン静注を使用し、DPC I 期での退院日 (大腸切除 8 日、幽門側胃切除 8 日、胃全摘 10 日) を設定している。その有用性を検討した

【対象と方法】

(大腸切除) 2012 年 4 月から 2018 年 10 月までに CP を使用し大腸切除を行った症例を対象とした。①前期 : ERAS 導入前 CP、②中期 : ERAS 導入後 CP (1. 外来での排便コントロール、2. 絶食期間の短縮、3. ポリエチレングリコールによる腸管前処置の廃止、4. 早期経口摂取)、③後期 : ERAS 導入後改訂 CP (1. 早期離床目的のリハビリ介入、2. 術後鎮痛のアセトアミノフェン内服)、④晩期 : ERAS 導入後新 CP (1. 術後アセトアミノフェン点滴、2. 術後点滴減量、3. 術前経口補水) の 4 期に分けた。

(胃切除) 2015 年 3 月から 2018 年 3 月までに CP を使用し幽門側胃切除と胃全摘を行った症例対象とした。①前期 : ERAS 導入前 CP、②ERAS 導入後 CP (アセトアミノフェン静注、早期経口摂取、早期離床目的のリハビリ介入、術後点滴減量) の 2 期に分けた。

研究実施期間 : 2018 年 11 月 ~ 2019 年 7 月

3. 研究に用いる試料・情報の種類

術前絶食期間、手術時間、出血量、在院日数、術後合併症、医療費等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先 :

熊本県熊本市南区近見 5-3-1 済生会熊本病院 TEL:096-351-8000

研究責任者 : 外科 小川克大

以上